

『風は思いのままに』(ヨハネの福音書 3章 1-10 節) 2021.6.6.

<はじめに> 目に見えない事柄、霊的なことを人に教えることは、そう簡単ではありません。ヨハネの福音書は、具体的な出来事に続いて、イエスがそこから霊的な真理を教え、解き明かそうとされています。この箇所もその一つです。ニコデモがイエスを訪ねたことから物語は始まります。

I 夜の訪問者(1-5)

①ニコデモという人(1-2)

この箇所から、ニコデモという人物についてどんなことが分かりますか。
イエスを訪ねたのは彼一人でした。どうして夜に訪ねたのでしょうか。

②「先生。…知っています」(2)

彼は最高の誉め言葉をイエスに伝えました。その教えは神由来で、しるし(御業)は神の臨在の表れだと認めたのです。そう見ている人は彼一人だけでしょうか。

③イエスの応対(3、5)

ニコデモの「…知っています」に対して、イエスはどう答えられたでしょう。
3・5 節のイエスの答えで繰り返されている言葉を見つけてください。

II あなたに言います(3-10)

①神の国(3、5)

ニコデモに、イエスは神の国を見、入る鍵を示されます。イエスはどのようにして神の国について語り始めたのでしょうか。ニコデモはイエスに教えとみわざに神の表れを見て興奮気味です。しかし、イエスは彼に神の国、神の領域に目が開かれることを望まれます。

②生まれる(3-8)

神の国を見るには、新しく生まれる必要がある(3)、と聞いてニコデモは常識的に返します(4)。イエスはさらに、水と御霊によって生まれる、と言い換え(5)、肉(体)的ではなく霊的な誕生だと説かれます(6)。

③厳しい言葉(9-10)

しかし、ニコデモは「どうして…」(9)と問い直します。イエスは答え(10)は厳しい言葉です。それは神に目を向けたニコデモに、イスラエルの教師として奮起と覚醒を促す期待の裏返しとも取れます。これは同時に、この箇所に触れ、同じ疑問を抱く者への励ましです。

III 御霊によって生まれた者

①神の王国(kingdom)

神の国は王国で、王は神です。神の国の祝福に与るのは国民、その国で生まれ、そこに生きる者です。神はその民のいのちを育む方です。その国民は、王なる神の民として生まれ、神との関係に生きることが求められます。

②どうやって生まれる(4)

ニコデモは自分で神の国を見たかのように語りましたが、イエスは神から生まれる経験を問われます。水と御霊(5)は、悔い改めとイエスによる新生です。「新しく」は上から、即ち肉体の命とは別の、御霊によって与えられるいのちを宿す経験がその始まりです。

③風は思いのままに(8)

目に見えない神と霊の世界があることにニコデモは気づきました。それは音で風に気付いたのと似ています。しかし、風がどこからどこへ吹いて行くのかは分かりません。霊の世界は王国の主権者・神の領域で、人が知性によって論理的に解明・解説してはいません。

<おわりに> うまく説明できなくても、それを体験していることで分かる世界があります。いのちの分野の多くはそうであり、霊的な世界は正にそうです。風(霊)は思いのままに吹き、神の御心と御業を実現します。神よ、私に霊(息)を吹き込んでくださいと祈ろうではありませんか(H.M.)